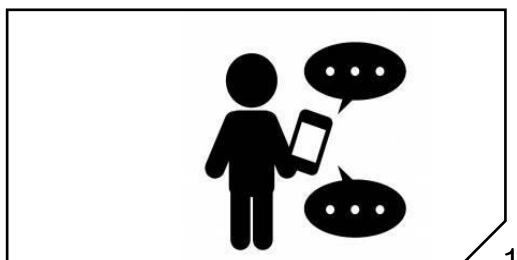


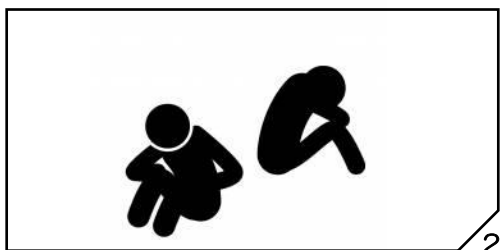
これまでにあったいじめ対応の実例

【1】SNSでの暴言



1

仲良くしていた友人から、SNSで被害者となる悪口が書かれたメッセージを大量に受けていた。



2

保護者を含めて当事者間での話し合いがもたれたが、意見のすれ違いが続いていた。



3

被害者の保護者から相談を受けた監察課が直接当事者に接触し、アプローチするなかで事実認定を行い、両者が謝罪しあい納得した。



4

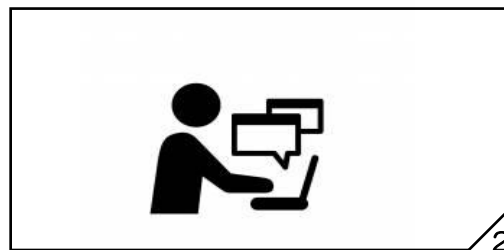
いじめ行為が止んだことを確認後、学校での指導、見守りを継続する教育的アプローチへ移行。

【2】クラスメイトからの暴言等



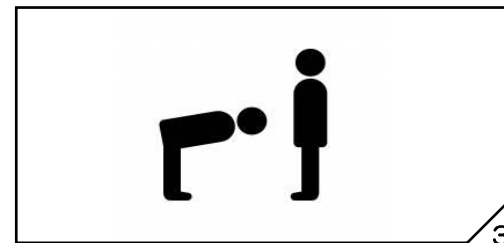
1

被害者はクラスメイトから暴言等を受け、学校を休みがちになった。



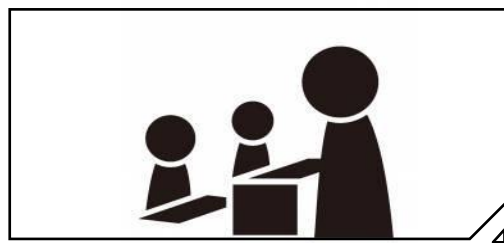
2

学校では被害者が休みがちで、いじめの事実確認がとれない状況であった。そのため被害者の保護者から監察課へメールで相談があった。



3

監察課が直接当事者と接触し、アプローチするなかで事実認定を行い、加害者は全面的にいじめ行為を認め、被害者へ謝罪した。



4

いじめ行為が止んだことを確認後、学校での指導、見守りを継続する教育的アプローチへ移行。休みがちであった被害者は元気に登校するようになった。